

院長の独り言

(2015年11月27日執筆)

WHO（世界保健機関）が、今年の11月16日から22日までを「抗菌薬啓発週間」として、世界中で抗菌薬（抗生物質ともいいます）の適正な使用を呼びかけました。この活動では抗菌薬啓発4原則を示しています。順に説明します。

(1) 求めない

抗菌薬は病原菌という病気の元になっている細菌が明らかに悪さをしている時に、その細菌にターゲットを絞って投与されます。しかし、風邪は細菌ではなくウイルスによって起こりますので、風邪がこじれて細菌感染が起こった時以外は、無効であるばかりでなく、からだに必要な細菌も殺してしまいますので有害です。安心するために医師に処方を求めることはやめましょう。医師の中には、無意味と知りながら、患者さんが強く求めると処方する人もいます。

(2) 飲むならきちんと

抗菌薬が処方された時には、その目的について説明がない場合には「この抗菌薬は何の目的ですか」と聞いてみるのもいいでしょう。抗菌薬は、ターゲットの病原菌を抑えるために適切な量が、適切な期間処方されています。症状が良くなった気がしても飲み続けて、確実に病原菌を死滅させるために、残さず飲みきって下さい。

(3) もらわない

親切心から抗菌薬を分けてくれる人がいましたら、丁重にお断りして下さい。抗菌薬は、素人が的確に選べるような薬剤ではありません。むしろ、その抗菌薬を捨てるようにアドバイスしてあげてもいいですね。

(4) あげない

もちろん、あなたも抗菌薬を誰かに渡すことはやめて下さい。医師以外の方が、的確に至適な抗菌薬を選択することはできません。

人類の宝である抗菌薬の乱用で、抗菌薬が効きにくい、あるいは効かない「耐性菌」が増えるスピードを少しでも緩めることは、医師だけでなく、われわれ一人一人の責務です。

